

New Space Europe 2018

参加報告

2018年12月9日



葛岡 成樹



目次

概要	1
感想	2
主な議論	3
(1) Space Investment Summit	3
(2) New Space Europe	3
(3) 気になったスタートアップ企業	3
ちよつと一言	3

概要

2018年11月27日から28日、ルクセンブルク大公国の首都ルクセンブルク・シティーのEuropean Convention Center Luxembourg (ECCL)にてNew Space Europe 2018が開催された。またその前日の11月26日、同じ場所でSpace Investment Summitが開催された。

New Space Europe 2018はルクセンブルク宇宙庁、宇宙フロンティア財団(Space Frontier Foundation)、および小型衛星運用会社Spire社が主催するもので、今年で2回目とのこと。約500人

が集まって、今年のテーマ「Breaking Barriers」のテーマの元、宇宙の新しいビジネスについて討議した。形式は講演と一部パネルディスカッションで構成され、展示は小規模なものであった。

この9月に発足したばかりのルクセンブルク宇宙庁は、その主管官庁が経済省であることとわかるように、そのミッションは技術開発や研究開発ではなくルクセンブルクの宇宙ビジネスエコシステムを開発・振興し、他の産業と協調させるという、あくまでも経済政策を目指した宇宙庁である。



宇宙フロンティア財団は民間による宇宙開発を推進することを目的とした非営利組織であり、6月に米国シアトル郊外で New Space 2018 を主催するなどその組織内に New Space 振興のためのボランティア組織を有している。

一方 Space Investment Summit は宇宙商業・フィナンサー (The Center for Space Commerce and Finance: CSCF) が主催した会議で、New Space ビジネスの投資家のために New Space ビジネス状況について説明・議論する場として設定されたものであり、招待者のみの会議である。この会議は 50 人ほどとコジンマリしており、講演・パネル後の質疑応答・ディスカッションが盛んであった。

CSCF は米国テキサスにある New Space エコノミー振興を目的とした非営利財団であり、この夏 NewSpace 事業計画競争 (New Space Business Plan Competition: NSBPC) を開催している。

筆者はこの両方の会議に出席するのはいずれも初めてであり、米国での NewSpace に比べて情報が少ない欧州の NewSpace 企業の状況およびその投資家を含めたエコシステムを知るために参加した。

感想

まず最初に出席した Space Investment Summit は、少人数の専門家による会議ということで密度の濃い情報が得られた。米国に比べて欧州発の宇宙スタートアップ企業は日本ではあまり紹介されていないが、いくつか興味深いスタートアップを知ることができた。とくに地上で利用する平面アンテナや IoT 用通信衛星システム、RF モニタリング衛星運用など日本ではほとんど見られない通信関連のスタートア

ップ企業が目についた。

さらにルクセンブルク政府を初め、英国、ドイツ、フランスなど各国が宇宙ビジネスとくに宇宙のスタートアップ企業の育成・振興に力を入れている様子が理解できた。欧州から見れば宇宙スタートアップ企業に 5 年間で 1000 億円投資するという安倍首相の発言が気になっているようだ。ただし日本に比べ、欧州ではスタートアップ企業数が多いこともさりながら、官・民のベンチャーキャピタル (VC) やメンターなど官民の支援制度・メンバーが手厚いようだ。たとえば Space Investment Summit のキーノートスピーチをした JKIC は 30 年間にわたる NewSpace の歴史の中で、VC がどのように変遷してきたかまた各国の宇宙機関がどのようにスタートアップ企業を育ててきたか説明した。また宇宙に特化した VC である Seraphim Capital は ICEYE や Spire に投資すると同時に Space Camp と称するスタートアップ以前の起業家に対する育成機会 (アクセラレータ) の提供も行っている。国や VC による単なる資金提供だけではなく、スタートアップ企業へ必要な支援があつてこそ NewSpace のエコシステムもうまくまわるのであろう。

さらに欧州について知るつもりで参加したが、スタートアップ企業および VC など支援組織が両方とも欧米にまたがって活動している実態が見えてきた。またスタートアップ企業を有効利用しようとしているグローバル大企業としては SES や Airbus D/S のような欧州発のグローバル企業だけではなく MAXAR というような米国大企業の欧州担当者が登壇していたし、スタートアップ企業側も Rocket Lab や Blue Origin というような米国発の企業も参加していた。宇宙ビジネスは大企業ではもちろん、スター

トアップ企業であろうとすぐグローバルな活動が必須であることを改めて思い知った。日本からは iSpace と Axel Space が参加して、グローバルな展開を図っているのが頼もしい所であった。

主な議論

(1) Space Investment Summit

<以下省略>

(2) New Space Europe

(2-1) Spire

<以下省略>

(2-2) GOMSPACE

<以下省略>

(2-3) Amazon AWS Ground Station のニュース

<以下省略>

(3) 気になったスタートアップ企業

<以下省略>

ちょっと一言

ルクセンブルク大公国の首都ルクセンブルク・シティー。コンファレンスの後の夕方にホテル・会場から車で 10 分ほどの旧市街に出てみるとちょうどクリスマスシーズン真っただ中。街の広場あちこちにはクリスマスデコレーションとクリスマスの屋台でにぎわっていた。欧州中央時間帯だが欧州の中部にある街なので夕方 4 時半になるとすでに日が暮れて、クリスマスのライトアップがますます映える。とはいえ歩いて回っても 1 時間もあれば回ってしまえる小さな街。夕方 5 時過ぎではまだ夕食には早く、ホテルに戻るしかなかった。ホテルの食事は良いも悪いも標準的なヨーロッパ料理である。ラム肉のグリルやステーキは特に珍しくもない。さて、ルクセンブルクらしい食事と言えば……。



結局今回は会議の合間のコーヒータイムに会場で出されたケーキを紹介しよう。コーヒータイムのスイーツとして、小さなケーキが出される。アメリカだとチョコレートやクッキーとなるのだろうが、ルクセンブルクでは小さな小指ほどのケーキ。それも一個一個丁寧に飾り付けがなされている。上に乗っている紫のアクセントは何かの花びらだろうか。小さいから 2、3 個はコーヒーと一緒にあっという間に食べてしまえる。形・色だけではなく味も一個一個異なり、結構楽しめた。

本報告書へのお問い合わせは：



株式会社 サテライト・ビジネス・ネットワーク

<http://sat-biznet.com/contact-us/>

葛岡 成樹



ユーロコンサル日本事務所

<http://www.euroconsult-ec.com>

葛岡 成樹